

WWFジャパン古澤千明氏に聞く



「植林木＝環境に配慮」ではない!?

FSC®の普及に欠かせないサプライチェーンの理解

私たちの暮らしに欠かせないさまざまな紙製品。その源である森林は、本来時間がたてば成長し、いつまでも使い続けることのできる再生可能な資源です。ところが、世界には今も紙を生産するための破壊的な森林伐採が続いている地域があります。使用する紙製品が、森や生き物、そして地域の人々に悪影響を与えて生産されたものではなく、環境や社会に配慮してつくられていることを、どうしたら確認することができるのでしょうか?たとえ消費者が環境や社会に配慮した製品が欲しいと思っても、完成した紙製品からそれを見分けることは難しく、手に取った商品の背景にそうした問題があるかどうかを知ることはできません。しかし、それを可能にする信頼の証となるのが、FSC®のマークです。森林を適切に管理し、消費者もそうした森林からつくられた製品を見分けることができるよう、WWFは森を守りながら利用していることの証であるFSC®の普及に20年以上取り組んでいます。

高まる消費者の関心

近ごろ、紙や木材などの森林資源だけではなく、マグロやウナギなどの身近な水産物などでも資源の持続可能性が話題になったりと、身の回りの環境問題に対する消費者の関心はますます高まり、「環境に配慮した製品を選びたい」という声も多く聞かれるようになりました。日本におけるFSC®に対する消費者の認知は、欧米などの先進国と比較すればまだまだ低いのが現状かもしれません。しかし、日本でも暮らしに欠かせない紙の利用を、より環境や社会に配慮されたものにしようとする具体的な取り組みを見せる企業は確実に多くなり、それにともないFSC®のマークは、一般の消費者の手に届くところに増え続けています。このような変化により、消費者の認知はさらに上がっていくのではないのでしょうか。

Caution

世界では、自然破壊が今も続いています。



「持続可能な森林管理方針」はどこへ?
続く森林破壊 2014.7.2 WWFニュースリリース

「止まらない森林破壊」
2013.10.25 WWFニュースリリース

WWF 森林保全と紙利用 検索

紙の環境配慮に関わる情報も多様なものがあり、なかには「植林木を利用しています」と書いてあるものもあります。しかし「植林木」とあれば、本当に環境に優しいのでしょうか?残念ながら、そう言い切ることはできません。なぜなら、「植林木」と表示されるものの中には、トラやゾウなどの絶滅の危機にある貴重な生き物が住む自然林を破壊してつくられた人工の森も含まれているからです。